

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 53人

② 算数 53人

5 留意事項

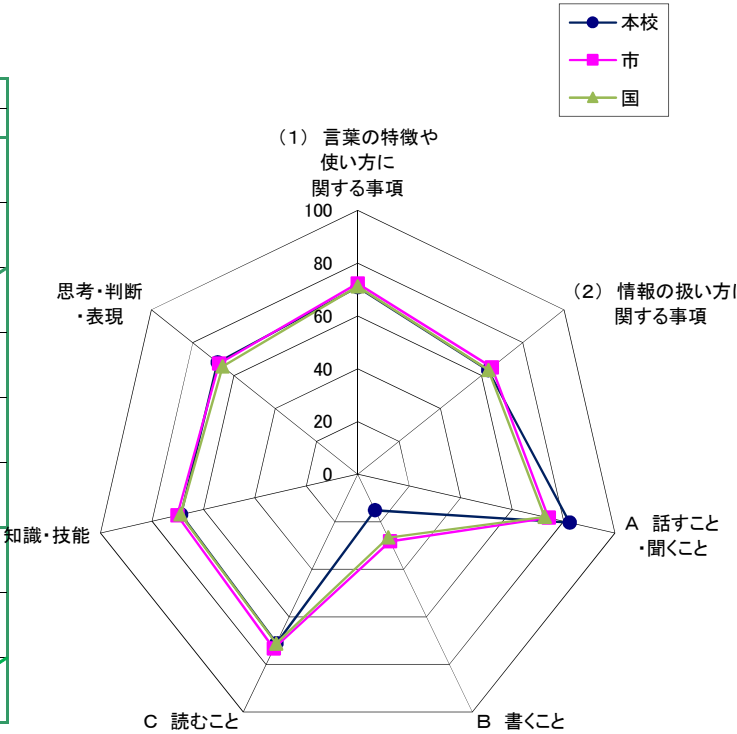
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	70.9	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	63.2	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	82.4	74.2	72.6
	B 書くこと	15.1	28.2	26.7
	C 読むこと	71.1	73.3	71.2
観点	知識・技能	68.7	70.2	68.9
	思考・判断・表現	67.9	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

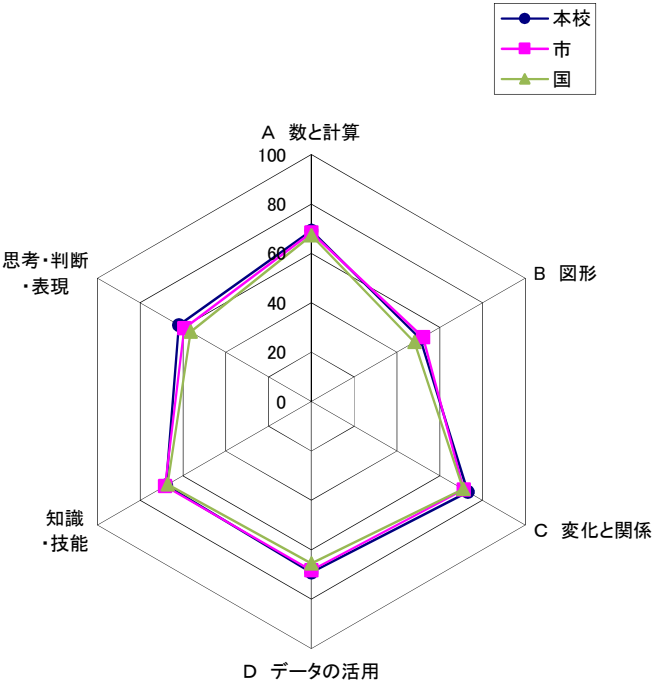
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、国や市の平均をやや下回った。 ○文章の種類とその特徴を選択肢の中から選んで答える問題で、国の正答率を1.3ポイント上回った。 ●漢字を文の中で正しく使う問題では、どの問題も全国平均と同程度かやや下回る正答率であった。 ●日常よく使われる敬語の使い方について答える問題で、国の正答率を4.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の小テストを行うことで新出漢字の定着を図るとともに、文章中で使うことを繰り返し指導し、日常生活の中で漢字を使うようにする。 ・普段から、敬語の使い方が身に付くよう、適切な言葉遣いについて指導していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、国や市の平均をやや下回った。 ○資料の中で、結びつけられた語句と語句の関係について説明したものを選択する問題で、国の正答率を5.9ポイント上回った。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題では、国の正答率を6.2ポイント下回った。	・調べ学習を行う中で、原因と結果など情報と情報との関係を結びつけて考えることができるよう、教科横断的に指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、国や市の平均を8ポイント以上上回った。 ○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる問題で、国の正答率を10ポイント以上上回った。 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかをみる問題で、国の正答率を7.2ポイント上回った。	・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるよう、質問の仕方について継続して指導していく。 ・自身の考えと話し手の考えを比較しながら、自分の考えを加除修正したり、自分の考えをまとめることができるようグループでの学習を充実させる。
B 書くこと	平均正答率は、国や市の平均を下回った。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題は、国の正答率を11.6ポイント下回り、課題がある。	・図書資料やインターネットの資料から得た情報を、グループで共有し、調べたことをまとめて活かすことができるようにする。 ・調べた情報を図表やグラフなどを用いて、新聞やポスターにまとめる学習を今後も継続していく。
C 読むこと	平均正答率は、国や市の平均をやや下回った。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる問題で、国の正答率を4.3ポイント上回った。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題で、国の正答率を3.2ポイント下回った。	・様々なジャンルの文章を読む機会を設けたり、本の紹介をさせたりすることで、読むことに慣れ親しませる。 ・国語の授業で、説明文の文章構成や筆者の考えなどをおさえ、文章と図表を結びつけて読むことができるよう指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.2	68.4	67.3
	B 図形	50.9	52.2	48.2
	C 測定			
	D 変化と関係	73.1	71.2	70.9
	E データの活用	69.2	68.3	65.5
観点	知識・技能	67.9	68.4	67.2
	思考・判断・表現	62.0	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、国や市の平均を上回った。 ○計算することは、よくできている。学年全体として、計算ドリルを使って、計画的に繰り返して計算を練習する機会を設定してきた成果だと考えられる。 ●(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題は、正答率が39.6%で、国の平均より8.0ポイント下回った。	・今後も継続して、朝の学習の時間や、家庭学習で、繰り返しドリルやAIDドリルを活用し基礎的・基本的な計算の定着を図る。 ・計算ができるだけでなく、なぜこの方法がふさわしいのか、話し合う学習を通して、筋道を立てて説明をする力を育てていく。
B 図形	平均正答率は、市の平均をやや下回ったが、国の平均は上回った。 ○台形の意味や性質については、市の平均より9.8ポイント高く、よく理解できている。 ●市の平均と比べると、「図形」の領域のみ、本校の正答率が1.3ポイント下回った。 ●正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、市の平均より、5.8ポイント下回っており、図形の性質の理解に課題が見られる。	・朝の学習の時間にAIDドリルを活用し、平面図形を構成する要素及びそれらの位置関係に関する振り返り学習を行い、図形の性質についての基礎知識をしっかりと身に付けることができるようにする。 ・具体物を用いた活動の時間を十分に確保し、図形についての感覚を豊かにできるよう支援していく。
C 変化と関係	平均正答率は、国や市の平均を上回った。 ○「変化と関係」の領域では、市の平均より1.9ポイント上回った。 ○比例の関係を用いて、知りたい数量の大きさを求める問題では、市の平均より、14.4ポイント上回っていた。 ●百分率で表された、割合について理解しているかどうかをみる問題は、市の平均正答率より、10.7ポイント下回り、課題がある。	・割合の表し方を理解できるよう、振り返り学習を十分に行う。また、日常生活を想定した問題に数多く取り組ませ習熟を図っていく。
D データの活用	平均正答率は、国や市の平均を上回った。 ○「データの活用」の領域では、市の平均より0.9ポイント上回っている。 ●「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる問題では、市の平均より2.1ポイント下回り、課題がある。	・文章題の意味を理解し、何を求めるべきかをしっかりと考え、問題に取り組む態度を、すべての教科学習を通して継続して指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「自分にはよいところがある」と肯定的肯定的回答した児童は、94.8%、「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と肯定的肯定的回答した児は、94.8%で、ともに国の肯定的割合を上回っている。今後も児童のよさを伸ばし、自尊心の醸成を図ることを念頭に全校体制で指導にあたりたい。	
○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的肯定的回答した児童は、77.6%だった。これは国の肯定的肯定的回答割合を9.1ポイント上回っている。教師への信頼が高いことが分かる。	
○「人の役に立つ人間になりたいと思う」と肯定的肯定的回答した児童は100%であった。道徳教育等を通じた公共心の涵養が結果に表れている。	
○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」を肯定的肯定的回答した児童は86.2%で国の肯定的肯定的回答を9.4ポイント上回っている。	
○「英語の勉強は好き」と肯定的肯定的回答した児童は、89.7%で、国の肯定的割合を20.4ポイント上回っている。また、「英語の勉強は大切だと思う」と肯定的肯定的回答した児童は98.3%で、国の肯定的割合を7.0ポイント上回っている。英語の学習への興味や意欲が高いことが分かる。	
●平日に、授業時間以外で読書をする時間は10分以上30分未満が、15.5%、2時間以上が3.4%であった。43.1%は全くしないと肯定的肯定的回答した。また、図書室、図書館に全く行かない児童が53.4%であった。今後も引き続き読み聞かせや、学校図書館の活用等で本に触れる機会を増やすなど司書と連携して読書活動を推進していきたい。	
●「国語の勉強は好き」と肯定的肯定的回答した児童は55.2%で国の肯定的回答より6.3ポイント低くなっていた。学習方法や読書習慣等の指導が必要と考えられる。	
●「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と肯定的肯定的回答した児童は56.9%で、国の肯定的肯定的回答を6.8ポイント下回っている。また、「課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいた」と肯定的肯定的回答したのは73.1%で、国の肯定的回答を8.3ポイント下回っている。主体的、対話的な学びを目指し、授業では、児童が興味関心をもって取り組める適切な課題を設けたり、対話による学習の機会を増やしたりするなどさらに工夫していきたい。	

宇都宮市立御幸が原小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学びで思考力・表現力を育てる授業作り	課題意識が高まる教材と問題との出会い、発問の工夫（導入の重視） 活動内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度を育成	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問への肯定的回答は80.1%で、国の肯定割合を0.8ポイント、県の肯定割合を4.0ポイント下回った。
個に応じた指導と学習内容の定着を図る指導の充実	授業での「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示とその活動の工夫 分かりやすい板書とノート指導の工夫 習熟度別学習や少人数学習、TT、朝の学習時の担任外の個別指導等の効果的な実施	基礎的な知識技能に関する問題、活用力を問う問題、ともに正答率が市や国を上回るものもあったが、無回答率が高い問題もあり、教科や個人差が大きい。特に国語については「国語の勉強は好きですか。」の質問の肯定的回答は55.2%に止まっている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発	「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」の質問への肯定的回答は74.1%で、国の肯定割合は上回ったが、県の肯定的割合は下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述問題についての正答率が低く、自分の考えを、表現する力に課題がみられる。 自分の考えを文章に書くことに、苦手意識をもっている。	問題や文章の意図を手掛かりに、自分の考えをもち、それを分かりやすく表現する力の育成	・自己肯定感を意識した授業を展開するとともに、多様な学習形態による友達との話し合いで、自分の考えをもち相手に伝える活動を多く経験させることで、自信をもって自分の考えを相手に伝えられるようにする。 ・各教科において、学習のまとめや振り返りの活動を充実させ、自分の考えを書いて表現する機会を多く設定する。